事例　学生募集活動の強化 **AO 選抜導入の経緯とこれから** ～九州大学～	☆本事例の中心人物 総長･副学長

事例内容

【概要】

九州大学では、平成 11 年に国立大学としては初めてアドミッションセンターを設立し（東北大学、筑波大学も同年設立）、平成 12 年度入試より、AO 方式（総合評価方式）による入学者選抜を開始した。従来の学力試験とは異なり、「認知領域」や「情意領域」での能力を総合的に評価するためである。ここでいう「認知領域」での能力とは、問題発見能力、論理的思考力、論理的表現力、理解力、応用力等、知識や技能などの側面に現れる能力で、「情意領域」での能力とは、学習意欲や好奇心、探究心、責任感、誠実性、協調性等、感性や意思などの側面に現れる能力とされている。AO 方式の導入によって、目的意識が高く、さまざまな分野でリーダーシップを発揮する能力を持った学生が入学している。第 1 回目は、法学部、薬学部、農学部の 3 学部で実施し、76 名が入学した。現在（平成 18 年度入試）は、21 世紀プログラムを加えた合計 8 学部等で実施され、全体定員の 7%にあたる 179 名が入学している。

【背景】

建学以来今日まで、創造的研究と学問への進取の精神、豊かな人間性と逆境に強い精神力を学風として優れた人材を輩出してきた同大学であるが、次世代への大学の責務の一環として、伝統的な筆記中心の試験で測れる学力とは異なった観点の能力を持つ学生を育てるという目的のため、新しい試みとして AO 方式による入学者選抜を導入した。また、新しい取組みを他に先駆けて行うことで、国立大学法人化後も確固たる地位を確保したいという狙いがあった。特に他の旧帝国大学に比べて、全国的な知名度が劣ると考えていたため、入試改革を行うことで、同大学に対する評価を向上させ、全国的な知名度を高めたいという思いがあった。

【取組みの経緯・推移等】

AO 選抜導入は、総長のリーダーシップの下、教育担当副学長が中心となって推進した。教職員に対しては、AO 選抜導入の意義や目的などを説明し理解を求めた（当初は、複数学部で 100 名ぐらいを AO 選抜入学者とする目標であった。）。入学者選抜手続きは、全学的委員会において、公平で透明な審査を慎重に行った。

AO 選抜導入において最も重要となったのは、高等学校への説明であった。これまでの教科、科目の筆記試験であれば、偏差値や得点で合格の可能性を測ることができ、また、試験内容についての受験対策も指導できた。しかし、AO 選抜では、どのように、何を指導すればよいか見当がつかず、「受験指導が大変困難である。」という不満が高等学校から出された。これに対して、同大学は、「受験生は、直接本学に説明を求めるように」と指導し、受験生一人ひとりに対し、懇切丁寧な説明を行った。高等学校に対しても、懇切丁寧な説明を引き続き行い、現在はこのような不満は聞こえてこない。

AO 選抜を実施している学部が、学部ごとのアドミッションポリシーを定め、それぞれの専門分野や特色に応じた学生を求めている。したがって受験生は、アドミッションポリシーをよく理解することが必要となり、結果として、同大学の建学の精神や各学部の教育内容を理解してから進学の決意を固めることになる。そのため、目的意識が高く、学部への適合率の高い学生が入学してくるこ

とにつながっている。また、AO 選抜入学者は学業成績においても、学部・科目によって異なるが、総じて一般選抜入学生とほぼ同等程度である。

【結　果】

AO 選抜導入が、同大学の活性化につながっている。また、近隣の高等学校に九州大学コースができるなど同大学への地域評価も向上した。そして、AO 選抜導入の成功が、現在同大学の大きな特色の一つとして非常に高い評価を受けている 21 世紀プログラムに結実している。

AO 選抜入学者と一般選抜入学者の相乗効果によって、他人とのコミュニケーション能力に優れ、論理的思考力と飽くなき探究心で問題を解決し、様々な分野でリーダーシップを発揮できる能力を持った人材を輩出している。

☆成功のポイント

国立大学としてはじめて AO 入試制度を導入したのは九州大学であった。総長のリーダーシップと教育担当副学長の情熱が入試改革を成功させた。改革にあたっては相当な困難があったと思われるが関係学部との協議調整を重ねて、現在 8 学部等で全体の 7%にあたる学生が入学している。当初、実現可能な 3 学部の入学者 76 名からスタートしたのも成功要因の一つと考えられる。第三者評価等で重要項目の一つであるアドミッションポリシーが各学部毎にしっかりと設定され、それに沿った学生受入が可能となっているところは高く評価される。

★今後の課題

AO 入試責任者の説明では、伝統的入試を重視し続けた高等学校等の先生方もかなり慣れてきたとの事ではあるが、引き続き高等学校や高校生等に対し同大学の学部毎のアドミッションポリシーを的確に説明し、それに沿った入学者の確保をさらに高い次元で達成できる事が現在の目標のように思われる。

なお、AO 入試関係の卒業生の活動状況については、もう少しデータが蓄積されれば入試へのフィードバックが可能となると思われる。

○委員の所感

AO 選抜導入から今日まで関係者の多くの努力があったと推察できる。アドミッションポリシーに合致した者を合格させる入試は、全学的委員会で公平に審査している。また、21 世紀プログラムは全員 AO 入試により受入れており、このプログラムの評価の高いことからも AO 選抜導入の成功が伺われる。AO 選抜入学者は学業成績において一般入学者と同程度のレベルであり、さらに一般入学者との相乗効果が期待でき、様々な分野でリーダーシップを発揮できる人材の育成が可能となっている。

他の旧帝国大学に比べて知名度が劣るのではという意味の話を伺ったが、すでにこれだけの入試改革を実施しており、危機感をもって運営されていることに感心させられた。